裏面に昨年度の「カヌーで宮島一周ゴミ拾い」の記事があります。

平成10年度セブンーイレブンみどりの基金 自然公園快適環境づくり助成事業

このページでは、平成十年度セブンーイレブンみどりの基金・自然公園快適環境づくり助成事業で助成を受けられた活動の中から、特に自然保護に貢献し、優れた活動を行っているグループを紹介していきます。

第一回は、カヌーを使って宮島のゴミ拾いを行っている、広島の宇宙船地球号の会の活動です。

助成活動団体紹介・その1

カヌーで宮島一周ゴミ拾い

●宇宙船地球号の会・事務局
戸野　直之

はじめに

広島の環境市民団体（NPO）の一つである宇宙船地球号の会（代表・竹本伸、会員数約六〇名、以下、会とする）は、一〇年前にゴミ問題を考える勉強会として結成され、これまで地元広島を中心に様々な環境保全・環境教育活動を行ってきた。中でも、地元の観光名所である国立公園・宮島（厳島）の包ヶ浦海岸（海水浴場）で、毎年春と秋の年二回実施している海岸ゴミ調査活動（ビーチクリーンアップin宮島）は、一九九二年以降、会の重要な活動の一つとなっている。

この活動に関連して、会では一九九八年九月一二～一三日に「カヌーで宮島一周ゴミ拾い」という清掃活動を行った。本稿では、それらの活動の経緯、および具体的な活動内容の紹介と報告をしてみたい。

活動の動機

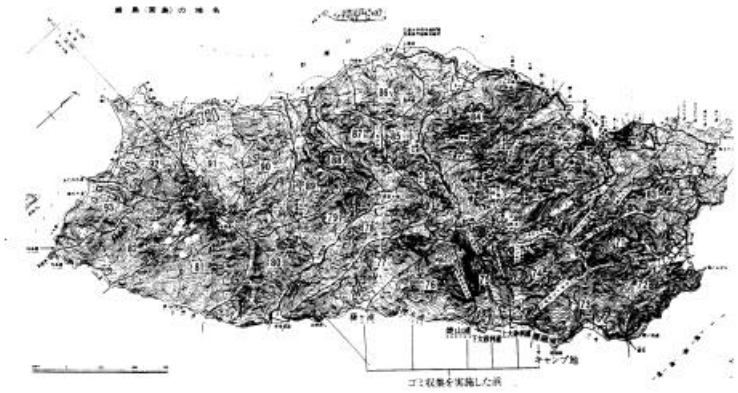
海岸ゴミ調査では、一時間半ほどの間に自分の両手を広げたエリア内（砂浜）に落ちているゴミ（人工物）をすべて拾い、種類と数を明らかにしている。広島湾に面する包ヶ浦の海岸ゴミの特徴としては、全国調査地点のトップであるたばこの吸い殻を抑えて牡蠣養殖関連の流出漁具が圧倒的多数を占めている。

この調査は、会独自のやり方ではなく、世界的に標準化された海岸ゴミの調査方法で、現在、日本全国はもとより全世界で実施されている。ゴミの定量化は困難であるが、定時・定点観測を継続していくことにより海岸ゴミの経年変化が明らかになる。また、他の調査地点と結果を比較することにより、調査地点の特徴が見えるなど、実施する意義は大きい。会では、積極的に、調査結果を行政や県漁連などに報告し、対策に結びつけるための基礎データとして活用いただいている。

そんな中、一九九八年春の調査において、包ヶ浦海岸以外（宮島北東端部の岬・絶ヶ懐海岸）の海岸ゴミ調査を行った。包ヶ浦海岸は、地元の代表的海水浴場ということもあって定期的な清掃が入っているため、島内ではきれいな海岸である。このため、複数の会員から「宮島の海岸ゴミの実態を知りたい」という要望があり、イレギュラーな地点で調査を実施した。この調査地点は、宮島の海岸ゴミに詳しい活動家の情報から、宮島の中でも最もゴミの多い（投棄ゴミ＋漂着ゴミ）海岸として選定した。

調査結果は、我々の予想していたレベルをはるかに超える状態で、まさに想像を絶するほどのひどさ（ゴミの種類と量）であった。このため、当初予定していた海岸ゴミの調査活動はあきらめざるを得ず、急きょ参加者全員で、各自が拾えるだけのゴミを拾う清掃活動を行った。

包ヶ浦で行う海岸ゴミの調査活動、絶ヶ懐海岸での清掃活動を経験した会員から、「宮島の他の海岸の実態はどうなのか？」「ぜひ知りたいし、ゴミがあれば清掃もしたい」との提案があり、これが今回の「カヌーで宮島一周ゴミ拾い」活動を始めた動機につながるのである。



ゴミ収集を実施した浜

活動の目指すもの

ボランティアで行う公共の場の清掃活動というと、大方の人は「使命感に燃えて、我慢して行うもの」「嫌々ながら、歯を食いしばって行うもの」などというイメージを抱きがちである。ボランティアの活動なのに、そんな気持ちで参加していては楽しくないし、何よりそれでは長続きしない。我々としても、参加者にそのような気持ちで清掃活動をして欲しくないし、我々自身もやりたくはない。楽しくなければ続かないのである。

というわけで、この清掃活動では、参加者全員が楽しみながら行うことを大きな目標として掲げることにした。

また、宮島には島内を一周する道路がない。島の南半分（南西海岸部）に行こうと思えば、アプローチは船に限られるのである。会員には船舶免許取得者はいないし、ましてや船の所有者は皆無である。ところが、遊びに使うカヌーはある。

なぜカヌーを使うのか？

我々の会では、毎年数回、山口県の錦川や高知県の四万十川に、泊りがけで（河原でキャンプを含む）カヌーツアーに出かけており、会員の間で最も人気の高い、これもまた会の重要な活動の一つとなっている。

季節・天候の良い一日、清らかな川の流れに乗ってのんびりと、時には速く、水面からの眺めを満喫すれば、必ずや人生観は変わる、と会のカヌー経験者は口をそろえる。カヌーツーリングは、身も心もリラックスのできるぜいたくで素晴らしい遊びであり、体験である。人力なので環境にもやさしい。

会の最も得意とする移動手段（カヌー）と環境に与えるインパクト（悪影響）、先程の宮島の南半分の海岸線の交通事情を考えたとき、自然な成り行きとして「カヌーでゴミ拾い」を思いついたのである。川と海との違いはあるが、基本的には水の上をカヌーで漕行することに違いはない。複雑な潮の流れや向い風など、川に比べて注意すべき点はあるが、活動範囲を海岸線付近に限ることにして、この問題はクリアすることにした。

宇宙船地球号の会のメンバー

浜辺に散乱するゴミ　（写真手前）

活動の内容

実際の清掃活動は、一九九八年九月一二～一三日、二日間にわたって行われた。下見を含めると、合計四日間の活動になる。

まず、本番実施の二ヶ月ほど前、清掃場所の下見を行った。会としても初めての経験であるので、清掃場所の選定も含めて、本番の前に一度現地を見ておこうということになった。自動車で行けるところまで行き、現地でカヌーを組み立て、相応の距離を漕行してみた。我々が予想していたよりもカヌーは漕げば進むし、向い風の影響も小さく、本番の実施に向けて自信を持った。

さて、いよいよ本番の実施日である。清掃活動のベースキャンプ地として、宮島南側海岸線の入り口である腰細浦海岸を選定した。ここに自動車を停め、キャンプの準備をした後、カヌーを組み立てた。参加者は、第一日目、第二日目とも約二〇名。二日間連続の参加者が多かったが、仕事の都合などで「せめて一日だけでも参加したい」と、熱心な参加者も数名いた。いずれの参加者も、厳しい残暑のもと、清掃活動にさわやかな汗を流した。

第一日目の清掃場所は、腰細浦海岸に隣接する大砂利浦海岸、焼山浦海岸、聖木浦海岸を、第二日目は、さらに遠方の藤ヶ浦海岸を選定した。基本的には、自動車で行くことのできない海岸線に、カヌーで海から接岸し、海岸の清掃をした。状況によっては、海面を浮遊している漂流ゴミも拾った。

海岸で拾ったゴミは、ゴミボート（ゴミ運搬用のゴムボート）に積み込み、満杯になったところで腰細浦海岸にあるゴミステーションまでピストン輸送を行った。人力のカヌーでゴミ満載のゴムボートを牽引していくので、普段の漕行よりもかなり水の抵抗が大きく、戸惑った面もあったが、元気な漕ぎ手のいるカヌーで牽引を行うなど、運用面で工夫した。

拾ったゴミの種類や量は、我々の予想をはるかに超えるものであった。当初、我々は海岸からの漂着ゴミが多いのであろうと想定していたのだが、実際には木や岩除に投棄された空き缶や発泡スチロール製容器が多かった。特に、空き缶はビール缶がそのほとんどを占めていた。一時間ほどの間に拾った空き缶の数は七〇〇個にものぼった。自動車が乗り入れることのできない海岸ゆえ、船で乗り着けたレジャー客がバーベキューなどを行った後、出たゴミをそのまま投棄した可能性が高いと考えられる。また、漁業関連のゴミも見受けられた。

二日間で回収されたゴミの量は、約三〇〇キログラムにもおよんだ（宮島町調べ）。

カヌーに満載されたゴミを運ぶ

予想を超える投棄ゴミ、空き缶ではビールの缶がほとんど

今後の問題点や改善すべきところ、今後の目標

このような事実は、現在、世間ではほとんど認識されていないものと思われる。我々の活動がきっかけとなって、このような投棄ゴミの存在が広く社会に認知され、世論の盛り上がりの中で結果的にゴミが減っていくよう、マスコミなど外部に積極的なPR活動を行っていきたいと考えている。

今回の清掃活動は、実は宮島の海岸線の一割にも満たない範囲にとどまっている。会としては、清掃を、宮島を一周するまで続けていきたいと考えている。清掃の効率だけ考えれば、もっと大規模・広範囲に行えば良いのであろうが、そうなると当初の活動目的（カヌーを楽しむ）から乖離することになるであろう。それゆえ我々は、今回のような比較的少人数での活動を目指し、年一回でも継続して行うことを第一に考えている。

次回以降の清掃活動場所は、自動車で乗り入れることのできるベースキャンプ地（ゴミステーション）からどんどん離れていくことになる。このあたりの問題解決が、今後の我々の課題となるであろう。

「セブンーイレブンみどりの基金」によって生じた成果

我々の会のように、バックに行政や企業がついておらず、普段から高額の寄付も望めないような小さな市民団体では、活動費の捻出が一番の悩みの種となっている。これまでにも、会で積極的に活動しようとすればするほど、活動資金の不足が表面化して、活動を縮小したり、断念せざるを得なかった事例も幾度となくあった。

今回の活動では、「セブンイレブンみどりの基金」より相当額の助成が得られたことで、当初我々の想定していた活動を、それなりの規模で成果に結びつけることができた。具体的には、カヌー二艇&ゴムボート二艇の購入と、当日の交通費などに充てることができた。

おわりに

以上、瀬戸内海国立公園・宮島の海岸をフィールドにした清掃活動「カヌーで宮島一周ゴミ拾い」の紹介と報告をさせていただいた。限られた紙面ゆえ説明不足の点などあるかと思われるが、詳細については会のホームページ（http://www.asahi-net.or.jp/~if7s-tkml/）にアクセスしていただくか、直接会に問い合わせていただきたい。

今回、助成金をいただいた「セブンイレブンみどりの基金」関係者の皆様には、会より感謝の意を表して、本稿の結びとしたい。